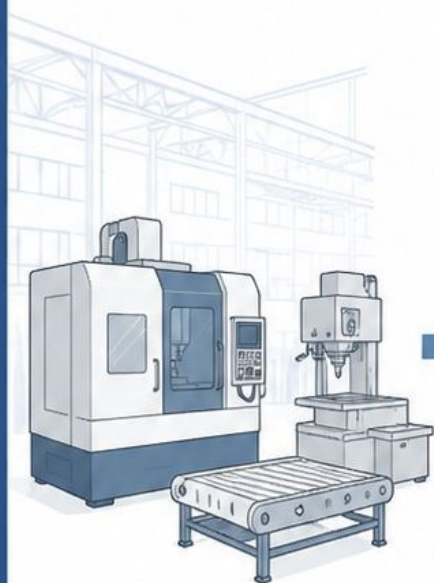


設備買取業者を 選ぶ前に 確認したいこと

価格だけでは見えにくい、
対応範囲・証憑・後工程リスクの整理



- ✓ 対応範囲
- ✓ 証憑の整備
- ✓ 後工程リスク



「買取業者は山ほどいる」 の意味を考える

中国には、設備を買う、引き取る、撤去する、再販する、スクラップとして処理する業者が数多くあります。

ただし、同じ『設備買取業者』と呼ばれていても、実際の役割や得意分野は同じではありません。

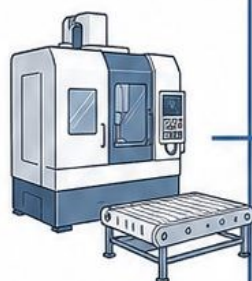
大切なのは、どの業者が良い・悪いではなく、現場に必要な範囲と業者の対応範囲が合っているかを確認することです。

このページのポイント

- ✓ 買取業者といっても、中身は様々ではない
- ✓ 価格だけでは比較しにくい要素がある
- ✓ まずは業者の役割を見分けることが大切



同じ『買取業者』でも、
見ている価値は異なる



再生資源回収

スクラップとして
資源を回収・販売



中古設備売買

中古として販売・
再利用



解体・撤去

設備の解体・
撤去作業を実施



競売・処分平台

競売やオンライン
平台での処分



移転・手続き支援

移転や各種手続きの
サポート

設備買取業者にも、 いくつかのタイプがある

『設備買取業者』とひとことで言っても、設備の見方や役割は同じではありません。

設備を資源として見る業者、中古設備として見る業者、解体や搬出に強い業者、手続き支援まで見る業者など、得意分野は分かります。

そのため、比較するときは価格だけでなく、何を価値として見ている業者かを把握することが大切です。

主なタイプと見ている価値

タイプ	主な見方	主な強み	確認したい点
 再生資源回収	資源価値	回収・換金が早い	設備価値よりスクラップ価値中心
 中古設備売買	再販価値	中古販路を持つ	得意な設備に差がある
 工場設備回収	まとめ処分	ライン一括で見やすい	証憑の範囲を確認
 解体・撤去	作業実行	解体・搬出に強い	安全・廃棄の確認
 競売・処分平台	価格の透明性	公開処分しやすい	現場実行は別途確認
 移転・手続き支援	全体整理	移転・証憑に対応	価格だけでは比較しにくい

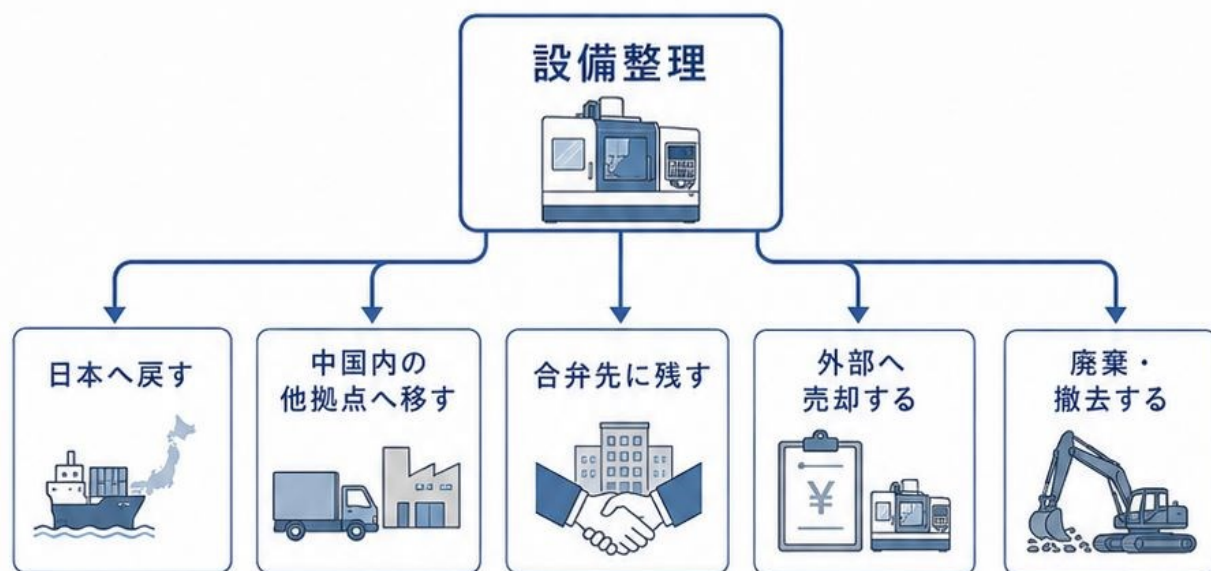


どのタイプが良い・悪いではなく、
現場で必要な範囲に合っているかを見る

業者を呼ぶ前に、 設備の行き先を整理する

設備整理では、いきなり外部業者の見積に入る前に、
まず行き先を分けて考えることが大切です。

日本へ戻す設備、中国内の他拠点へ移す設備、合併先に残す設備、
外部へ売却する設備、廃棄・撤去する設備では、
必要な手続きも見積条件も変わります。



このページのポイント

- ✓ 売却対象が明確になる
- ✓ 見積条件をそろえやすい
- ✓ あとで手戻りを減らせる



先に行き先を分けると、
業者選定が整理しやすくなる

相見積は、価格だけを見るためのものではない

相見積は重要です。ただし、金額だけを比べると判断を誤りやすい場面があります。

見比べたいのは、何を買取るのか、どこまで撤去するのか、搬出条件、証憑、スケジュールなど、見積の前提条件です。

見積で見比べたい項目

	買取対象	どの設備まで含むか
	撤去・搬出範囲	どこまで外して持ち出すか
	解体の有無	基礎・配管・付帯物の扱い
	発票・契約・証憑	どの書類が残るか
	スケジュール	いつまでに完了するか
	安全管理	作業責任と管理体制
	後工程との接続	原状回復などへの影響



同じ金額でも、前提条件が違うことがある

役割を分けて 業者を見る

設備整理では、最初から1社にすべてを求めるのではなく、役割ごとに整理して見ると判断しやすくなります。

1社で複数の役割を担う場合もありますが、まずは何を誰に任せたいのかを分けて考えることが有効です。



1社に決める前に、
必要な役割を分けて見ると整理しやすい

見積金額だけでは 見えにくい対応範囲

見積書に書かれた金額だけでは、実際にどこまで対応してもらえるのかは見えにくいことがあります。

大切なのは、金額ではなく、
その中に何が含まれているかを確認することです。

見積の中身を見る視点

確認項目	○ 対応範囲に含まれる場合 (例)	✕ 対応範囲に含まれない場合 (例)
 買取	✓ 対象物の買取価格が含まれる	— 買取価格は含まれない
 撤去	✓ 撤去作業費用が含まれる	— 撤去は別途費用が必要
 搬出	✓ 建物内からの搬出まで含まれる	— 搬出は含まれない
 解体	✓ 解体作業費用が含まれる	— 解体は別途費用が必要
 発票	✓ 適格請求書 (インボイス) を発行	— 発票の発行は含まれない
 契約書	✓ 契約書の作成・締結が含まれる	— 契約書の作成は含まれない
 証憑整理	✓ 証憑の整理・提出が含まれる	— 証憑整理は含まれない
 固定資産照合	✓ 固定資産台帳との照合が含まれる	— 照合は含まれない
 原状回復との接続	✓ 原状回復業者との連携を含む	— 原状回復との連携は含まれない



価格差は、
対応範囲の差かもしれない



見積金額とあわせて 確認したいこと

業者選定では、金額とあわせて、あとで困りやすい論点を先に確認しておくで安心です。

特に、途中で条件が変わる場面、廃棄物が出る場面、作業中の事故や現場復旧が絡む場面は、事前確認が重要です。



途中で金額が
変わる条件



搬出・解体の
責任範囲



発票・契約・証憑



廃棄物処理と証明



安全管理



搬出後の
現場状態



金額とあわせて、条件と責任範囲も確認したい

現場責任者が 本当に見ているもの

現場責任者にとって、設備買取は単なる売却ではありません。
本社説明、合弁先対応、税務・海関、大家、
社内調整など、後工程を見据えて進める必要があります。

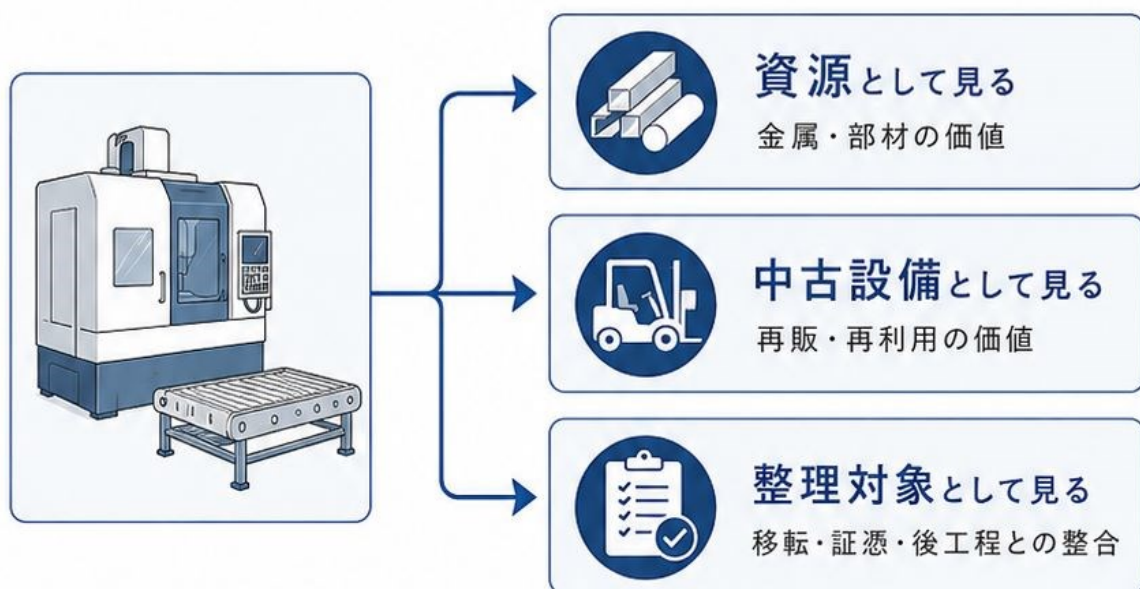


必要なのは「高く売ること」だけでなく、
「あとで説明できる進め方」

見ている価値が違うと、 見積の意味も変わる

同じ設備でも、業者によって見ている価値は異なります。

資源価値として見るのか、中古設備として見るのか、
撤去・整理全体の一部として見るのかによって、
見積の考え方は変わります。



見積金額だけでなく、
業者が何を見ているかも確認したい

業者選定チェックリスト

全部を1社に求める必要はありません。
まずは何を確認したいかを整理します。

1 設備整理



- ☐ 行き先を分けたか
- ☐ 売却対象が明確か
- ☐ 対象外設備を除けているか

2 見積条件



- ☐ 買取範囲
- ☐ 撤去・搬出範囲
- ☐ 解体の有無
- ☐ 途中変更条件

3 書類・証憑



- ☐ 契約書
- ☐ 発票
- ☐ 貨物清單・リスト
- ☐ 廃棄証明
- ☐ 固定資産照合

4 後工程



- ☐ 安全管理
- ☐ 現場復旧
- ☐ 原状回復との接続
- ☐ 本社説明資料

あとで困らない 進め方を選ぶ

中国には設備を買う、引き取る、撤去する業者が数多くあります。

大切なのは、価格だけで決めることなく、行き先整理、対応範囲、証憑、搬出、安全、後工程リスクまで見て判断することです。



設備買取業者選定は、価格比較だけでなく、現場責任者が最後まで説明できる進め方を選ぶ作業です。